

第35回日比経済合同委員会概要報告

2017年3月1日

1. 開催日：2017年2月28日（火）

2. 開催場所：帝国ホテル東京「桜の間」

3. 出席者：総勢117名

[日本側] 小林健代表世話人（三菱商事㈱取締役会長）、朝田照男代表世話人（丸紅㈱取締役会長）、片野坂真哉代表世話人（ANAホールディングス㈱代表取締役社長）はじめ56名

[フィリピン側] ロベルト・ホセ・カスティージョ 委員長（President,&CEO, EEI Corporation）、アニセト・サルード 共同委員長（Founding&Managing Partner, Saludo Fernandez Aquino & Daleon Law）、ジェラード・サンビクトレス 共同委員長（Chairman&President, QRD Investors Inc.）はじめ52名

[来賓] ラモン・ロペス貿易産業大臣、アーネスト・ペルニア国家経済開発庁長官、滝崎 成樹外務省アジア大洋州局審議官、石川和秀駐フィリピン共和国日本国特命全権大使はじめ9名

4. 概要：

（1）開会式

開会式では、両国代表による挨拶、外務省アジア大洋州局の滝崎審議官による安倍首相メッセージ、在日フィリピン大使館のラウレル氏によるドゥテルテ大統領メッセージの代読が行われた。

（2）基調講演

基調講演では、国家経済開発庁のペルニア長官が、近年のフィリピン経済の高成長で経済構造について、消費主導から投資主導に変わりつつあり、従来からのサービス産業に加え、製造業が伸びたことから、多くの質の高い雇用が創出されていると述べた。また、インフラや教育・社会保障などへの公共投資を拡大しており、今後も2017年～2022年までの開発計画をベースに公共投資を増やすことから、周辺諸国に比べて高い年率7～7～8%の経済成長を継続できるとの見通しを示した。



ペルニア長官(右)と小林代表世話人

（3）第1回全体会議「フィリピンの産業化と経済発展」

第1回全体会議では、ロペス貿易産業大臣と倉内宗夫㈱三菱東京UFJ銀行顧問がスピーチ。ロペス貿易産業大臣は、フィリピン経済は従来から好調なサービス業に加え、投資と工業が経済成長を牽引しているとの認識を示した。今後は製造業、サービス業などの重点分野について、国際競争力を高める産業政策を推進するとともに、雇用の7割を占める中小零細企業の強化を行い、包摂的な成長を目指すと述べた。

これに対して、三菱東京 UFJ 銀行の倉内顧問は、フィリピンの人口は1億人を越え、日系企業から今後の成長性を大きく期待されているとコメントし、今後、さらに日本からの直接投資を呼び込むためには、フィリピン政府が製造業の裾野産業誘致のための施策を充実させ、道路や港湾などのインフラ事業を強化することが肝要であると指摘した。また、進出に当たっては現地パートナーとの関係構築が重要であると発言した。



ロペス貿易産業大臣

(4) 第2回全体会議「フィリピンにおける地域経済の発展」

第2回全体会議では、バタンガス州のエルミナンド・マンダナス知事と国際協力機構の上野和彦参事役兼課長がスピーチ。マンダナス州知事はバタンガス州がマニラに近い地理的な優位性を生かしつつ、日本政府の支援も仰ぎ、高速道路や港湾、発電所などのインフラ整備を積極的に行い、多くの日系製造業を受け入れている現状を紹介した。国際協力機構の上野課長は、日本政府の支援によるマニラ首都圏における南北通勤鉄道(マロロスーツツバン間)やメガマニラ圏地下鉄の整備計画のほか、災害リスク軽減・管理能力向上プロジェクトやミンダナオの平和と安定に向けた取り組みについて説明した。

(5) 第3回全体会議「フィリピンにおける農業事情について」

第3回全体会議では、アジア太平洋大学のローランド・ディー教授とヤンマー東京支社企画室専任部長の松原武夫氏がスピーチ。アジア太平洋大学ディー教授は、フィリピンはASEAN 主要国で貧困率が最も高く、農業の生産性向上や国際競争力の強化に積極的に取り組む必要性に言及した。続いて、ヤンマーの松原専任部長はフィリピンでは食糧需要が増加する一方で、都市化により農業人口が減少し、農地面積は変わらないといった状況にあると述べ、さらなる機械化を推進することで生産性向上による食糧自給率の向上や国際競争力の改善による輸出拡大が重要と述べた。

(6) 閉会式

閉会式では、両国代表から各スピーカーと参加者の協力に感謝が述べられた。



小林代表世話人とカスティージョ委員長



朝田代表世話人

(7) その他

夕食懇談会では小林代表世話人から次回のフィリピンでの開催が案内され、日本側の次期筆頭代表世話人を務める朝田照男丸紅(株)取締役会長を紹介、朝田会長より「次回、フィリピンでの再会を楽しみにしている」と挨拶を述べた。